

第950回

## 臨時教育委員会会議録

日 時 令和7年10月29日（水） 15:00～

場 所 保健センター 大ホール

益田市教育委員会

第950回 教育委員会臨時会

招集年月日 令和7年10月29日（水） 15：00～

招集場所 保健センター 大ホール

議事日程

第1 協議

(1) 市教育に関する大綱の見直し（ビジョンへ盛り込んでほしい内容）について

(2) その他

出席者

教育委員会

教	育	長	領	家	芳	明
教	育	委	齋	藤	哲	瑯
教	育	委	原	田		笑
教	育	委	山	本	ひとみ	
教	育	委	森	脇	達	也

事務局職員

教	育	総	務	課	長	齋	藤	勝	義					
学	校	教	育	課	長	田	原	正	紀					
学	校	教	育	課	参	事	杉	原	貴	宏				
教	育	総	務	課	主	任	主	事	木	束	地	志	緒	里

領家教育長

定刻となりましたので、ただいまから令和7年度第950回  
益田市教育委員会臨時会を開催いたします。

## 第1 協議

### (1) 市教育に関する大綱の見直し（ビジョンに盛り込んでほしい内容）について

領家教育長

本日は、協議事項が1件となります。

協議事項、市教育に関する大綱の見直し（ビジョンに盛り込んでほしい内容）について事務局より説明を求めます。

齋藤課長

それでは、協議という位置づけでお話をさせていただく時間を、本当にお忙しい中ではありますが、お集まりいただいたという状況です。皆さん方のお手元には、ぎりぎりまで調整しながら載せている資料があります。これをご覧いただく中で、協議としてそれぞれの委員さんの思いというところもお話しいただければと思っています。

表題としましては、市教育に関する大綱の見直し（ビジョンへ盛り込んでほしい内容）についてというところです。これにつきましては、皆さん方にも先般、21日の総合教育会議の中でテーマ、コンセプト、3つのキーワードと、決定してきた事項に対しましてたくさん議論、審議をいただいた形だったと思います。その中で、おおむね最終的には市長に一任という形にはなりましたけれども、事務局側として今度別途つくっております教育ビジョン、教育審議会で諮問いたしまして今審議をいただいているところです。この教育ビジョンの審議に向けてという整理の中で、大綱には掲載しないけれどもビジョンに盛り込んでほしい内容というのも最後のところの資料の中に定めたところでもございました。これにつきましては、総合教育会議の場において、やはり教育ビジョン自体が教育委員会が策定するものという位置づけでございましたので、審議会に向けて対応していく事項等々を含めた中で、教育委員会の中で論議したらどうかというところを市長からいただきました。この宿題に対しての臨時会の開催となっているところでございます。その上で、皆さん方に、今お示ししておる資料を含めて、今日の視点的なものを前段でお話をしていきたいと思っています。

先ほど言いました大綱には掲載しないがビジョンへ盛り込んでほしい内容というところで、「つながり」、「ひろが

り」、「ひととまち」という3つのキーワード、この中で大切にしたいことというところを大体4つから5つの項目立てにおいて前回の資料で盛り込んだところがございます。これは、最初に、今お手元の資料の3、4前段のところに掲載をしています。ご覧のとおり、多分この流れでいくと、おおむね次の施策的なものを想像できたりとかというキーワードも盛り込まれているような表現だというのはご理解いただけるかなと思っています。ただ、これはある意味思いつくままの中で羅列をしたような現状でございますので、今回このビジョンにつないでいくということでありましたら、一定程度のやはり整理が必要であると考えているところです。ここら辺のところを踏まえて整理をしていただくような形で進めていければと考えています。

もう一点、そこを前段としましたら、最後のページに実は教育審議会の審議状況について、これは先日懇談会の中で木東地からも説明をさせていただきました。その内容と私なりに少し視点を変えて次期教育ビジョンの骨子案のところをご覧いただければと思います。ここの聞き取った内容について少し修正をして、今回の表題に合わせるような流れにしました。教育審議会においてこのビジョンの骨子案を事務局案として今回掲上しました。その中で、やはり今策定をしております総合振興計画の後期計画、この内容にひもづく形で具体施策、そして主要施策、さらには主な取組というのを羅列したような形の骨子案をつくって提示をしたところです。

しかしながら、この中では、教育審議会委員さんのほうからは、総合振興計画の内容にひもづくものとしての整理は分かるけれども、特に体系から見るともう内容自体は総合振興計画と同じものであるのではないかというような話がありました。これは、要は教育ビジョンという位置づけで整理をしていくものであって、総合振興計画と真っ対のものではないほうがいいのではないかという指摘でありました。そういったところで行きますと、やはり教育委員会としましては、今回策定をしている教育の大綱につながるものとして方針や、方向性、考え方をやはり盛り込むのがこのビジョンだという位置づけとなります。そこら辺を含めますと、こちらに書いてありますとおり、重点目標（案）とかもそうですが、このキーワードのフレーズを盛り込むという状況はあれど、活動目標というような目標的なものについては、やはり独自のもの

のがいいのではないかというようなところを含めて、今回この内容をもって次回の教育審議会自体が11月19日の開催を予定しています。この骨子案についても、結局その審議会においてはいま一度熟慮していただきたいという考えで整理をされました。これにつきましては、次回のところでは見直し案を具体的に提示するというのがもう決まっておりますので、その前段として骨子案を事務局とそれから会長、副会長でいま一度整理をすることになっています。そこに附帯をして、今回臨時教育委員会でいただくこのビジョンに盛り込みたい内容というところの整理をしながら、ビジョン整理の見直しに進んでいきたいという考えが事務局側としてはあるというところでございます。

さらに、実態として、その骨子案の中身を少し見ていただく必要があるかなと思いましたので、こちらが、現状で言う見直しに係るビジョンの骨子案という位置づけの整理をしている現状のものです。ここでは、一番上にはテーマがあります。これは大綱テーマで、そして左側にコンセプト、3つのキーワード、その3つのキーワードにつながるフレーズ、その次に実は今回見直しの整理をしようとしているビジョンに盛り込んでいただきたい内容というものをこの中に掲げています。表題として、現行のビジョンでは活動目標と言っておりますけれども、これについての表現も何かしら考えて整理していきたいと思っております。これがある中で改めて具体施策、そして主な取組につながるような形での整理をしていきたいという考えになっているところでございます。

今日の主題としてありますけれども、骨子案というものはありますが、具体施策、主な取組についてはやはりちゃんと教育審議会のほうで審議していただく内容だというふうに捉えれば、それまでところの中における活動目標（案）のところについて、これが今回の論議の中で整理されるべきものだという位置づけの中で今日があるということをまず皆さん方にもご理解いただきたいと考えているところです。

その上で、先ほど言いました、私のほうから提案をさせていただきたい内容としましては、盛り込んでほしい内容というものの位置づけは、先ほど言った2ページ目にあるつながりの中で大切にしたいことなどなど3つのキーワードにひもづく5つぐらいの項目内容になっています。実は、その次のページに、それを整理してみたい皆さん方に素案を出す中で、

こちらに基づいていろいろな議論をいただきたいというところで提示するべきだと思ひまして考えてみました。そういった中では、ビジョンへ盛り込む目的と整理というところを含めて見ていただければと思います。①大綱の内容を踏襲したビジョンの骨子案の作成です。現行の考え方、先ほど言いました重点目標に3つのキーワードを盛り込むということを考えております。さらに、活動目標にはビジョンへ盛り込んでほしい内容を盛り込んでいきたいと考えています。目標という表現をどうするかというのは置いといても、今のこの骨子案の中での意味合いはこういう形で作成に取り組んでいるという状況です。その上で、盛り込んでほしい内容というものを調整した事務局案として、②に提示させていただいています。形としては、3つのキーワードから広がります。もちろん3つのキーワードを想像させるフレーズというものそのまま生かしていきたいと思ひます。ただ、活動の目標（案）を、やはり今回は教育ビジョンでありますので、ここの表現はできれば「大切にしたい教育」という位置づけで表現をしていきたいと考えています。その上で、それぞれ「つながり」、「ひろがり」、「ひととまち」という3つのキーワードに附帯する内容は、この教育に関する大綱の中で、現状今市長が提示されています、もちろん教育委員の皆さんとも協議したそれぞれの2つのこれっていう連想させるフレーズというものを参考に、大切にしたい教育という位置づけで整理した事項をこの目標の中に盛り込んだという状況です。

まず、「つながり」です。大切にしたい教育という位置づけですが、1点目が、学校、家庭、地域が手を取り合い子どもたちを共に育てる協働の教育という位置づけにしました。これも、市長の提案された、また総合教育会議の中で話された内容でいくと、学校、家庭、地域が連携してひととひとのつながりを生む学びの場をつくるというフレーズです。これを大切にしたい教育というのになぞらえて、協働の教育というものを最後の文言として整理をしてきたところです。続いて、2点目です。一人ひとりの個性や違いを認め合い、思いやりの心を育てる共感の教育です。それは、こちらの大綱側でいくと、個性や多様性を尊重し、違いを認め、協力し合える地域をつくるという位置づけに沿って考えたフレーズです。

続いて、「ひろがり」です。この中の大切にしたい教育と

ということについての1点目です。自分で考え、行動し、挑戦する力を育てる主体性を育む教育という位置づけにしました。こちらは、大綱の中では、主体的に考え、行動した結果を次の行動に行かせる力を育てるという位置づけにしております。次に、2点目です。こちらでは、興味や関心を広げ、創意工夫しながら学ぶ創造性を育む教育という位置づけにしました。大綱側につきましては、好奇心や探究心を育み、創意工夫と挑戦を後押しする環境をつくるという位置づけになっています。

最後に、「ひととまち」です。こちらの大切にしたい教育という位置づけですが、まず1点目、ふるさとを大切にしながら、世界にも目を向けるグローバルな教育という位置づけにしました。大綱側においては、グローバル、ローカル、両面の視野を育てるというフレーズになっています。最後に、大切にしたい教育の最後になりますが、子どもから大人まで学び合い、支え合うまちづくり教育という位置づけにしました。大綱側においては、持続可能なまちづくりの担い手を育てるというフレーズになっています。

どれもそれぞれ、「つながり」、「ひろがり」、「ひととまち」の大綱のフレーズを参考にしながら、大切にしたい教育という位置づけの中での表現ができる整理をしたつもりであります。これらを含めまして、この素案をもって教育委員の皆さん方と協議を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。以上です。

領家教育長

ありがとうございました。では、もう一度コンパクトに確認します。教育ビジョンの全体の流れの中で、ここまでは大綱の中で固まったところで、前回の総合教育会議の中で市長からいただいた宿題が、資料のこの部分、この4項目や5項目の部分をしっかり教育委員の皆さんで議論していただいて、それで審議会の皆さんに提示されたらどうでしょうかという発言をいただいたものを受けてということで理解していただきたいと思っております。この4つ、5つに若干生煮え部分があったので、もう一度再度事務局で提案していただいたのがこの資料裏面に落とし込んだ2つの項目のものです。しかも、これを活動目標という言い方にするのではなくて、それぞれのフレーズの中で大切にしたい教育、つまり逆に言えば、これからの教育ビジョンの中で6つの大切にしたい項目は3つのキーワードから広がっていくよということなので、

端的に言うと、協働の教育と共感の教育と主体性を育む教育と創造性を育む教育とグローバルな教育とまちづくり教育という6つの教育を大切にしたいと思いますが、どうですかの提案になるのかなと思っています。そのような流れで、これからこの事務局案のたたき台について議論をしていただきたいという流れで進めようと思いますが、よろしいでしょうか。ここまでのところで何か質問等があれば、事務局に伺いたいことがあれば伺いますが、いかがですか。

原田委員

今、ここに赤字で書かれている活動目標の1番から4番、1番から5番までのことは一旦忘れていいということでしょうか。

領家教育長

そうです。もう白紙にしようという話です。

原田委員

分かりました。

領家教育長

ほかにはいかがでしょうか。

齋藤委員

これは基本中の基本ですが、この教育大綱と教育ビジョンは子どもを中心にまとめていくということでしょうか。

齋藤課長

もちろん結局大綱の流れを受け止めその方向性を定めていく、盛り込んでいくのがビジョンという位置づけになります。教育振興基本計画という位置づけですから、そのとおりになっています。

領家教育長

今回の教育に関する大綱は、ここのフレーズで、「わたしの学びがひととまちの未来を拓く」ということに決定ということになりましたから、前回までの教育ビジョンは子どもをどう育てるかというビジョンでしたが、今回はもうあらゆる大人のものを想定してやるという理解で進めていただけたほうがいいと思います。

齋藤委員

そうですね。私もそう思っていました。例えばこの大綱の見直しの項目の1番の上から3つ目、お互いの違いを理解し大切に（学校、家庭、地域の活動）と括弧書きにして限定しているわけですね。

領家教育長

どこでしょうか。

齋藤委員

ビジョンに盛り込んでほしい内容の、これは2枚目、議事日程の次です。

齋藤課長

そうですね。これは、先ほど言ったように、活動目標という中に今はありますが、これを整理した形のものが、こちらの事務局案として提案した内容が次のページにあります。

齋藤委員

それは分かるけれど、その家庭、学校、地域の活動と限定しているのは、お互いの違いを理解し大切にするというだけに

なっています。先ほどの子どもを軸にするのであれば、この言葉を使ってもいいですが、お互いの違いを理解し大切にするだけが家庭、学校、地域の連携じゃないと思います。

領家教育長

齋藤委員、実はそこの議論をこれからしたいので、今進め方の質問をさせていただいています。その部分は、例えば「つながり」のところでご意見を伺いますと言ったときに言っただくとありがたいです。

齋藤委員

というのは、全体を押さえていく視点も必要になってきます。

領家教育長

分かります。なので、本当におっしゃるとおりで、子どもを育てるといふ議論ではなくて、もう全ての益田市民の人の目標だという大前提で議論させていただければと思います。

齋藤委員

だから、そこが重要になるので、確認したいことです。

領家教育長

了解です。分かりました。ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。それでは、話合いの進め方です。3つのフレーズがあるので、1つずつ進行していきます。例えばまずは、「つながり」のこの2つのフレーズについて皆さんからご意見をいただく。次は、「ひろがり」のほうでご意見をいただき、なるべく言葉の整理まで含めたような到達点になればいいなと思っています。それを「つながり」、「ひろがり」、「ひととまち」とやった後、ここにほぼ皆さんの議論の中でゴールした形を載せますので、最後トータルでもう一度3つ並べてみて、どうだろうか、そこはないだろうかみたいな確認をさせていただきながらゴールの地点というふうに話合いを進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

山本委員

大綱には掲載しないがビジョンで盛り込んでほしい内容ということで事務局が整理され、市長さんから、この内容については検討してくださいと提案がありましたが、この資料の項目は、まだ案として生きているのでしょうか。

領家教育長

これは生きてないと思ってください。これを今からみんなで作って出すということです。

山本委員

大切にしたい教育という位置づけに直して……。

領家教育長

はい、作り出す。

山本委員

作り直すということは、見ていかないといけない資料としては、資料2番の「ビジョンへ盛り込む目的と整理」というところを検討すればいいのでしょうか。

領家教育長

そうです。その資料と益田市教育に関する大綱、MASUDA FUTURE VISIONという資料を参考にしてい

ただきながら吟味していただくといいかなと思います。

山本委員

大変申し訳ないですが、今回資料がぎりぎりだったというところもありますが、印刷した資料があったほうが良いと思います。

領家教育長

わかりました。そうしましょう。では、今から準備をさせていただきますので。そのほか、他にも疑問があればお願いします。話合いの進め方がある程度分かれば、今度各論に入っていけると思うので。ほかはよろしいでしょうか。

齋藤委員

それと、2番目のビジョンへ盛り込む目的と整理のところで、大切にしたい教育のところで、「協働の教育」とか「共感の教育」という言葉を使っていますけど、言葉とすれば正しくないです。

領家教育長

はい。だから、そういう意見もぜひ言ってください。

齋藤委員

わかりました。そこで、個別の問題じゃなくて、まずひとつ全体的にどうなのかというのを求めてもらったほうが良いのではないのでしょうか。個別にだとそれだけになってしまいますから。

領家教育長

なるほど。

齋藤委員

やはり「協働の教育」と言われても、何ですかという話になってしまおうし、言葉としてはおかしいので、「協働の教育」という言葉はなくてもいいのではないかという気がします。

領家教育長

学校・家庭・地域が手を取り合い、子どもたちを共に育てるで終わるといえることですか。

齋藤委員

はい。どうしてここに「協働」や「共感」の言葉が出てくるのだろうという話になってしまおうかなと思いました。

領家教育長

分かりました。そのために、事務局が今回こういったたたき台をつくったので、それは必要ないということもしっかり議論していただいて、成案をこれで作っていかうと思っています。

山本委員

もう一つ質問です。2番の今回事務局がまとめられたもの、本当に分かりやすくなったという印象です。ですが大綱のときに、それぞれのキーワードについて2項目ずつ整理しましたよね。

齋藤課長

はい。

山本委員

これまで整理したものを生かさず、この言葉にした理由を教えてくださいませんか。それぞれのキーワードについて何を大切にすることというのを、2行ぐらいに整理してきました。とてもいいと思いますが、なぜ生かさなかったのかなと。

齋藤課長

そこは、そのまま生かすという方向性も多分あったと思います。あえてこれは教育ビジョンに盛り込むことだと思ったので、今回その大綱に盛り込んだもの、大綱の考え方、大綱の中に入れるフレーズをそのまま入れ込むよりは、ビジョンの内容に近いものに持っていく。要はビジョン自体がやはり方向性みたいなところを示すものだと考えると、どうしても教育という位置づけが僕は湧かないので、だからこの大切にしたい教育というフレーズの中にあるものを、今言った2つの項目に近いところを踏襲しながら、それを想像しやすいような中身にしていきたいフレーズにやり替えたという感じで僕は思っていました。

領家教育長

了解です。そうすると、その各論に入るまでに、さっきの全体像、齋藤委員がおっしゃっていた協働の教育は要らない、こういう教育じゃなくて言葉でまとめたほうがいいのか、そんな議論をまず皆さんでしっかり最初にさせていただいて、それからじゃあ各論に入るという流れで進めさせてもらっていいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

領家教育長

では、先ほど齋藤委員は「協働の教育」とか「共感の教育」とか「主体性を育む教育」という言葉をあえて使わなくても、言葉で「大切にしたい教育」ということを定義したほうがいいのかというご意見のように承りましたが、あと補足があればお願いします。

齋藤委員

それともう一つは、この「大切にしたい教育」というのも要らないと思います。ここに教育と入れてしまうと、子どもに対してという意識が強くなり、どうしても学校教育が中心になってしまいます。例えば文化財とかスポーツ大会とかを入れようということであれば、「大切にしたい視点」はどうでしょうか。教育という言葉が出過ぎると非常に堅いイメージになります。

領家教育長

分かります。いかがでしょうか。だから、「大切にしたいこと」というようにする、「大切にしたい視点」というように表現したほうがよい、「大切にしたい教育」としてしまうとどうしても子どもたち中心という、一般市民の方にとってのイメージがあるのではないかとご意見だと承りましたが、いかがですか。

原田委員

私もそのように思います。「大切にしたいこと」とか「大切にしたい視点」と言い換えてもいいのではないかと思います。

す。大綱とビジョンが同じでもいいというお話だったので、もうこのまま大切にしたい視点ということで、大綱で決まったことを掲げて、私たちが考えないといけないのはそこから先ではないかなと思います。私たちが議論するのはこれではなくて、その2つの視点を持った上で、じゃあどういう教育につなげていくかというところのほうを具体的に提案しないと、何かこのオレンジ色と具体策の間の部分が1つあって、それが私たちの役割ではないかと思いました。

領家教育長

分かりました。結局、もうつながりの2つのキーワードのものは、大綱の中にきっちり書かれているから、その次のことはじゃあ何なのかというのをこの場で議論する、そのほうが必要じゃないかというご意見だと思いますが、皆さんいかがでしょうか。そうすると、教育という言葉もあえて要らなくなるということですよ。

原田委員  
齋藤委員

はい。

それと、ビジョンへ盛り込む目的と整理のところの①に大綱の内容を踏襲したビジョンの骨子案の作成とあります。子どもたちには家庭、学校、地域との連携を例えばどうするかという方向性、それから市民にとっては、人とのつながり、活動の展開や広がりだとか、そういう視点を入れますよということをもう少し説明したほうがいいのではないのでしょうか。

領家教育長

いかがでしょうか。というご意見もございます。紙の資料が届きましたので、早速それを見ていただきながら。

それでは、全体像のところでも今いろいろなご意見をいただいているので、どうでしょうか。それぞれ委員の皆様方で、ただ今一つ整理すると、「大切にしたい教育」という言葉は使わないことについては、おおむね方向性としては皆さん一致でいいですね。

教育委員  
領家教育長

=全員了承=

それから、原田委員から出していただいたこの注釈については、もう大綱の中でしっかり記されているから、その大綱の注釈の次の具体施策につながる場所について今日は議論がしたいと思います。そうすると、若干このたたき台をどうこうするというよりも、もう皆さん方のいろいろな思いを書き込んでここに行くような形になりますが、その方向でよろしいでしょうか。ほかの意見がありましたらお伺いいたしますが、いかがでしょうか。

齋藤委員

教育審議会の開催はもう終わったのでしょうか。

齋藤課長  
齋藤委員  
齋藤課長

まだ終わってないです。11月19日が最後になります。  
それまでに会長と副会長で調整をする話と伺いました。

そうですね。先ほど言いました骨子案を出しましたが、骨子案自体が先ほど言った総合振興計画と全く対になってはいけないので、そこら辺のところの骨子案を整理することと、それを含めた見直し案を出すというのは事実です。

齋藤委員

教育審議会では、あまり項目にこだわらないで、少し抽象的な狙いというものに視点を置いて出してもらったほうがいいのではないのでしょうか。

齋藤課長

先ほど少し言いましたように、審議会自体が今審議中です。基本的には、先ほど言った大綱の流れを組んだビジョンをつくっていくという方向性には間違いありません。今日開いている内容は、あくまでこの間の総合教育会議の中で市長とお話をする中の宿題として上がったものの整理です。これ以上細かいことをやってしまうと、審議会がやらなければいけないことまで突出してやってしまうてはいけませんから、あえて活動目標部分だけはここの中で整理しましょうという定義をさせてもらったそうです。細かい施策とかそういったところはここではしないという位置づけでやらせていただければうれしいなと思います。

齋藤委員

それは事務局が考えればいい話で、教育審議会から出てきた意見を整理をして、事務局が具体化していけばいいことなので。

齋藤課長  
齋藤委員  
齋藤課長

最終的にはそうなります。

そうなるでしょう。

はい。一応先ほど言いましたように、大綱というか、総合振興計画とまったく同じになってしまうことが、いけないという話です。入り口としては、たまたま骨子案に出したのが、総合振興計画の具体施策を中心に施策をひもづけて骨子案として出したつもりでした。それでは総合振興計画と真っ対になってしまうという議論でした。その内容では、教育ビジョンの意味がなくなってしまうてはいけないので、やはり大綱にひもづいたビジョンであるべきだという位置づけになったときに、今ここに出しているところでいくと、コンセプトもテーマも出しました、それは大綱にひもづいていることですからビジョンとしてはもちろんのことだと思いますし、3つのキーワードが結局この時代に沿ったものとしてのキーワードに上がってきています。これが今の大綱の趣旨です。そして、その

フレーズも確定しました。それで、この後に具体のビジョンとしてすすめる施策につながるヒント的なものとして、たまたまという言い方は悪いですが、この間事務局案として上げたものが、大綱には掲載しないけど、要するにビジョンには盛り込んでほしい内容という位置づけで総合教育会議の中に定義をさせてもらった状況でした。なので、今回はその総合教育会議の中で、市長のほうからも言われましたけど、これは教育委員会で議論するものでして、位置づけがあって、これはそもそもいろいろ羅列されている現状はあったところであっても、審議会のほうにそのものに自体を提案しようと思ったら、やはりここはいま一度この盛り込む内容というものに対しての整理をしてもらいたいというのが事務局の思いでもありますし、この間の総合教育会議の中で論議された結果の部分だと思って今日説明させてもらったという状況です。

齋藤委員

分かりました。だから、ここは少し抽象的に出したほうがいいと思います。例えば2のビジョンへ盛り込む目的と整理という言葉を使っていますが、ここには、全市民を対象にして総合的に取り組んでいく内容のもの、子どもたちには家庭、学校、地域との連携を十分にしながら積極的に地域に広がりを持っていきたいというようなことを分かりやすく簡単に文章化していったほうがいいのではないのでしょうか。

それから、②ビジョンへ盛り込んでほしい内容の調整と書いてありますが、盛り込んでほしい内容だけでいいと思います。少し文言が細か過ぎる気がします。

領家教育長

ありがとうございます。そのほか、大きい流れのことで、ここで確認しておきたいことはありますか。

齋藤委員

要は、方向性を大綱それから総合計画に基づいてビジョンをつくっていくわけでしょうから、それでいいですよ、流れは。

齋藤課長

はい。

齋藤委員

そうすると、ここでやはり先ほど原田委員の話にあったような形で、少し具体的に内容をどのように展開していったらよいかについての話をもう少し出してもらって、結果としてこういうふうに整理しましたという流れに持っていったほうが、よいのではないのでしょうか。

領家教育長

一回整理します。例えば今日の話ですが、「つながり」というところがあります。その「つながり」の中で、「学校、家庭、地域が連携しひととひととのつながりを育む学びの場を

つくる」「互いの個性や多様性を尊重し、違いを認め、協力し合える地域をつくる」までが大綱の中でまとまりました。ですから、このつながりのこの2つを生かしたときに、教育ビジョンに「大切にしたいこと」、あるいは「大切にしている」というフレーズとして、何をここで皆さんにお伝えするかということは今から議論する。その中で、今回事務局が出してきた家庭、学校、地域が手を取り合い子どもと共に育てるといようなこの言い方は、繰り返しになるからそれはやめようという意見と、それから「協働の教育」、「何とかの教育」という言い方はやめようということは確認しました。

そうすると、前の教育ビジョンの資料を見ていただきたいです。6つの重点目標ごとに「〇〇の子ども」と書いてあるのは置いといて、例えば「ふるさとのよさを理解する」ということを「大事にします」という言葉のフレーズにするのか、あるいは「郷土愛」という端的な短い言葉にしてお伝えする、2つのパターンがあると思います。この言い方について、皆さんはどっちのほうの方が分かりやすくなると思われませんか。それによって、このつながりのところで、何を大事にしましょうということの言い方のところで、「郷土愛です」と言うのか、「ふるさとのよさを理解する」にするという話だって、齋藤委員は少し長いフレーズでどうですかっておっしゃっているから、「郷土愛」のような端的な言葉はやめてそういうフレーズにしましょうというご意見だと思うのですが、ほかの皆さん、どちらがいいかと思ってお伺いしますが、いかがでしょうか。

齋藤委員

よろしいでしょうか。例えば重点目標2番目に「不撓不屈」という言葉があります。これなども、もう少し分かりやすく「自分の夢に向かってたくましく生きる子ども」のほうが素直でいいと思います。

領家教育長

そうすると、子どもはやめて、「自分の夢に向かってたくましく生きる」と言ったら、大人も子どももそうなりますよね。

齋藤委員

ここには、目指す子どもも恐らく入っているのでしょうか。

領家教育長

はい。なので、そういう言葉で言ったほうがいいということですね。

齋藤委員

そういう言葉、表に出るのなら、そのほうがいいという気がします。

原田委員  
領家教育長  
原田委員  
領家教育長

言葉のほうに1票。

1票ですか。

はい。

ほかの皆さん、それでは、その方向で議論させていただくということでもいいですか。

教育委員  
領家教育長

=全員了承=

そうすると、じゃあいよいよ各論に入らせてもらいます。それでは、「つながり」のところ、2つのフレーズ、先ほどのことを生かしたときに、大切にしたい視点だとか、大切にしたいことという視点でご意見をいただくと、パソコンに注釈を打ち込みます。打ち込んだ内容が画面に出ますので、それを見ながらまたご意見をいただければと思います。最初にどなたか口火を切っていただけるとありがたいですが、いかがでしょうか。

山本委員

よろしいでしょうか。大綱で整理しました「つながり」の中の2つの項目がありました。これが視点そのものだと思います。なので、これをまた具体的にすることになるとイメージが湧かないです。もうこれが視点と言い切ってもいいのではないかと思っています。それでは問題があるのでしょうか。

領家教育長

という意見が山本委員からはいただいています、皆さんどうですか。

原田委員  
領家教育長  
森脇委員

山本委員に1票。

森脇委員、いかがでしょうか。

頭の中で、誰のためにどうまとめたらいいのかなと思案していました。市民の方が目にしたときに、あまりたくさん物事が並んでいると少し難しくなるかと思っています。今山本委員が言われたように、シンプルにして、あとはその年度ごとにいろいろな施策があると思いますし、積み上げていく施策もあると思うので、あまりたくさんビジョンの中に入れてしまうと決まり事になってしまって、縛られてしまうところもあるのかなと思います。シンプルに一度して、物足りなかったら皆さんでもう少し付け足していくことも一つの考え方かなと思うのですが、どうでしょうか。

領家教育長

そうすると、よろしいですか。これをもう一度確認すると、骨子案の資料のなかで、例えば「つながり」では、重点目標（案）に入る言葉が「ひととひとのつながりの中でどう生きるかを学ぶ」になります。その次の活動目標（案）の欄に

「大切にしたい視点」とか「大切にしたいこと」として、「学校、家庭、地域が連携しひととひととのつながりを育む学びの場をつくる」ことを大切にしていきたいです。あるいは、「互いの個性や多様性を尊重し、違いを認め、協力し合える地域をつくる」ということを大切にしたい視点ですというふうに置くのが、大綱をしっかりと議論してきた教育委員としての思いなので、これ以上端的にする必要はなく、これが市長と一緒に考えた私たちのメッセージですとして送って、審議会の皆さんに、これでは分かりにくいのであれば、もう少しいろいろな言葉を付け加えてもらいながら、それはもう一個枠をつくってもらって、審議会での議論で大切にしたいことみたいなことにしてもらってここに書き加えてもらう。そうして、ひもづけの施策は各事務局でつくり直してもらうというのが、皆さんの今聞いていると意見ですが、そういう整理でよろしいですか。

齋藤委員

少し伺いますが、「ひととひととのつながりの中でどう生きるかを学ぶ」これは一つの目標ですよね。その下に、「大切にしたい教育」とありますが、何かにつけて「教育」という言葉が出てきますが、もし要るのであれば、「大切にしたいこと」ではどうでしょうか。この大綱の中では「つながりを実感できる学びの場を育む」という言葉を使っていけば、家庭、学校、地域という言葉はあまり出てこないと思います。だから、全体的な視点から特に子どもたちにはこういう視点で家庭、学校、地域との連携を図りながらできるだけ幅広く学んでもらいましょうと。それから、市民の方々には、いろいろなひととひととのつながりとか広がりを経験してもらいながら、例えば自分の人生の在り方を考えてもらう等のような全体的に総合的な視点から「つながり」、「ひろがり」を考えていったらどうでしょうか。

領家教育長

もうあえてフレーズとして「つながり」の中でキーワードのような感じで伝えておけば、あとは教育審議会の皆さんに細かい注釈についてはしっかりと議論してもらいながらという流れがいいのではないかとのご意見でしょうか。

齋藤委員

はい。ですから、先ほど冒頭にお話しした「協働の教育」とか「〇〇の教育」は要らないと思います。

領家教育長

全く要らないということですね。

齋藤委員

むしろなくしたほうが教育審議会でも少し入りやすい感じがします。

領家教育長

というご意見です。これを基にしてメッセージを送って、あとは審議会の皆さんでしっかり議論していただくということでしょうか。

齋藤委員

はい。

領家教育長

皆さんいかがでしょうか。今のような議論の方向で、事務局は何か困ることはありますか。

齋藤課長

あくまで事務局側の素案として皆さん方にご提示をして、これは議論の中のまず参考として、その上で皆さん方の思いを出していただきたいという話でありました。先ほども言いましたように、大綱の中での3つのキーワードの注釈として流れていくものと、言葉が少し違うだけであって、中身は変わらないと思います。ですので、先ほど言った活動目標は、これはビジョン側で考えることであるので、表題としては教育審議会で十分審議をしていただく形にはなると思います。先ほど齋藤委員が言われた「大切にしたいこと」とか、あまり堅苦しくないような意味合いでという位置づけも、私たち事務局も思っているところがあります。これも含めた教育審議会の議論をしていただくような整理になることには問題ないと思います。

領家教育長

では、今皆さんにいただいたようなことをまとめさせていただくと、益田市教育に関する大綱 MASUDA FUTURE VISIONの資料にまとめられている3つのキーワードとその注釈および事項を審議会にしっかり投げかけていただいて、あとの細かい議論については審議会の議論を待つ。そして、その議論で12月には、答申いただきますので、答申からパブリックコメントに出すまでのところで一度皆さん方に見ていただきながら、皆さん方の思いや、審議会での議論の様子も含めて、それらを整理させていただいてパブリックコメントに投じるといような流れにさせていただきますでしょうか。よろしゅうございますか。

領家教育長

森脇委員、いかがでしょうか。

森脇委員

市長さんともしっかり益田市内の教育についてかなり絞ったお話もできたその成果として、やはり教育ビジョンにうまく反映できることが一番いいのではないかなと思います。前はビジョンのほうが行先してしまったので、大綱とうまく一致してない部分が結構あったと思いますが、今回は市長さんともお話をする中で、それがビジョンに本当にうまく一致というか、落とし込めることが一番大切だと思いますので、皆

さんと確認したことがうまくビジョンの中に入るといいと思います。

領家教育長

ありがとうございます。そうしますと、大体皆さんの総意として、今のような流れでまとめさせていただくということによろしゅうございますかね。

教育委員

=全員了承=

領家教育長

じゃあ、このことだけは、事務局が審議会の皆さんにお伝えしておいて欲しいということを付け加えることがあれば伺いますが、どうでしょうか。

齋藤委員

前回に申し上げましたが、失敗を許せる環境をつくるということがとても大事だと思います。この前もお話ししたように、失敗させない、失敗しちゃいけない、失敗するとすぐ怒られてしまい、嫌気が差してやる気を失ってしまう子どもたちが多くいます。何らかの形で失敗を許せる環境について、どこかで含めてもらったらありがたいなと思います。子どもたちに自信をつけさせるためには、人から認めてもらうということがとても大事なことです。今の社会は、人を認めるのではなく、相手の負を責め立てていくような環境にあって、そういったことがいじめの問題とか不登校の問題とか暴力的な問題とかにつながっているのです。そこについても少し力点を置いてもらいたいかなと思います。

領家教育長

ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

森脇委員

最初に齋藤委員さんからもありましたが、前回の教育ビジョンが子どもや学校教育にかなり視点が当たっていましたが、教育に関する大綱を決める総合教育会議の中でも話がありましたが、やはり大人も成長するまちになるような教育ビジョンになるといいと思いますので、そのあたり事務局でしっかり伝えていただいたりしながらいけるといいかなと思います。

領家教育長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

山本委員

前回の審議会の状況報告の中で、教育ビジョンとそれから総合振興計画、同じような内容となるのではないかというご意見があったと思いますが、その差というのは事務局で整理してお伝えされたらいいのではないかと思います。言っていることは、方向性は一緒でいいと思います。けれども、こちらの骨子（案）については、むしろ総合振興計画を意識してつくられたものだと思いますが、これを出すと審議会の委員さんたちは、これを手直しするという感覚になってしまうと

思います。審議会の委員さんは大綱の中で示した方向性に基づいて、今後について現状を踏まえてもっとうこういうふう施策を広げていったほうが良いのではないかと、事業を充実していったほうがいいのではないかと、令和8年度以降の主な取組についてしっかりご意見をいただくというのがビジョンではないかなと思います。それを踏まえた上で具体的な今後の計画を立てることというのが総合振興計画だと思っているので、少し整理をして提案していけたらいいと思います。ビジョンと総合振興計画の認識について間違いがあるかもしれませんが、私的にはそういうイメージです。ここで何の話の審議するのか、どんな答申をいただきたいのかというところが多分分かりにくくなっているのかなというのを少し心配しているところです。

領家教育長  
原田委員

ありがとうございます。

山本委員さんがおっしゃったとおりです。私自身も、その辺の整理がうまくついてなくて、この場でどこまでが私たちの役割なのかということがあまり分かってなかったのですが、ではどうして「ひととまち」にグローバル、ローカル、両面の視野を育てるというのを入れたかということを考えると、もちろん郷土愛であったり、ふるさとを後押しできる存在であったり、でも全体の世界的な視野を持つ子どもを育てたいという思いからです。持続可能なまちづくりの中には、スポーツ振興であったり、大人から子どもまで健康であるということを入れたいからこれにしました。じゃあ、その入れたい部分を考えるのは私たちの役目ではないということですか。少し分からなくなってきました。

領家教育長

最終的には、審議会の委員さんたちが答申いただきますが、僕らの思いとしてメッセージとして伝えるのは問題ないと思います。なので、こういう思いでこれを入れたということを事務局が上手に注釈して、審議会へ伝えていくことが大事かなと思います。

原田委員  
齋藤課長

よろしくをお願いします。

いろいろご意見をいただきまして、ありがとうございます。確かに、まず山本委員さんがおっしゃった部分ですけど、もともと総合振興計画が益田市の最上位計画という位置づけです。そして、教育の部分に関しての方向性、これは市長が策定をされるという総合教育会議。そして、教育委員会が教育に関わる施策の方向性を示すという位置づけでつくるもの

が、この今の教育ビジョンという位置づけです。上位計画から順に言いました。今回、この教育審議会の中で提案した内容の骨子案は、確かに先ほど山本委員さんがおっしゃられたとおりでした。これは、意識づけとして総合振興計画がたまたま今後期計画をつくっているという位置づけがあり、そこに施策というのがありました。さらに、皆さん方毎年見ている点検・評価報告書があると思います。これも、どちらかというところ、意識はビジョンではなく、総合振興計画を意識したつくり込みになっています。教育ビジョンがそっちのけになっているというのが本当はおかしい現状です。今回は、その流れを、総合振興計画が上位計画にあります、教育委員会としては大綱があつて、ビジョンがあつて、そうするとその中でそれぞれにひもづく施策がある、その取組の内容がある。だから、要するに毎年毎年行う点検・評価報告というところの中で事業の振り返りをしていく流れが一番ずっと皆さんに理解していただけるのではないかとこのところに向けて本来は整理をそういう形でしていくべきですが、意識がどうしても総合振興計画に要は点検・評価の部分があつたので、そういう骨子案になってしまった。それが正直審議会の中で指摘をされているというものだと思います。

今回の中でいきますと、要はいま一度その審議会の中で言われた、せつかく大綱ができたので、大綱の中身を踏まえてビジョンとして出していくというところの流れをいま一度考えていただくという指摘を含めて、今回いただいた総合教育会議の宿題、さらには今回のこの臨時教育委員会の結論、これをもって次の19日の審議会でこの内容を説明して、あえてやはり教育大綱とビジョン、そしてビジョンにつながる主な取組について触れた整理ができるように、事務局側としても実りある教育に関わる方向性が示せるような内容に持ってくる、これは少し整理をして行っていきたいと思っています。

領家教育長  
教育委員  
領家教育長

では、それでよろしいでしょうか。

=全員了承=

それでは、画面を見ながら確認をさせていただきます。今日の確認ですが、誰のためにどうまとめるか、そしてシンプルにして年度ごとに伸びていくのを決まり事にはしないほうがいい。そのため、端的にはせずに、前回の総合教育会議で整理したもの、3つのキーワードの注釈および事項の2つの言葉

をそこに並べるということで、大切にしたい教育も不要で、教育審議会へつないで細かい内容については教育審議会で審議をしてもらう。その後、附带的に意見として入れていただく中で、失敗を許せる環境づくり、これは大事だから、この部分はしっかり取り組んでほしいし、それから現行のビジョンは学校教育が主な内容になっているけど、新しいビジョンは幅広い人が対象であることが伝わるようなこともしっかり議論をしていただきたいということで、事務局のほうで送っていただくという整理でよろしゅうございますでしょうか。

教育委員  
領家教育長

=全員了承=

それでは、今日は協議ですから、皆さんからそういう意見をいただいたということでまとめさせていただこうと思います。

では、今日2つ目の話題です。この間の総合教育会議で議論させていただきましたデザインを確認してもらいながら、また意見を言うさせていただこうと思います。事務局これについて説明がありましたらお願いします。

齋藤課長

それでは、皆さん方のお手元に、席ごとにお配りさせていただきました。

市内のデザイン会社をお願いをしまして、今こちらも前回の総合教育会議の中で、2つ折り、それからデジタル版、最後に4ページ版ということで、皆さん方もなかなか言葉だけでは想像ができない部分があったかなと思いますし、私たちもこういう形にすることによって、なるほどというところも出てきたと思いましたので、作らせてもらいました。確認をしていただければと思っています。それぞれ見栄えとしていろいろよいところ、悪いところ、気づくところ、多分あると思います。明日デザイン会社と打合せの予定をしておりますので、せっかくの臨時教育委員会の機会でございますので、お手に取っていただく中でお気づきの点があれば、打合せの中でまた盛り込んでご説明していきたいと思っております。

領家教育長

まず、4つ折り版と2つ折り版という言い方をしましたが、結局縦型版か横型版というのを見ていただいて、どちらがインパクトや、伝わるかという視点で見たときにご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

原田委員

4ページ版に1票。縦型だと、全体像が見えなくて、もったいないという気がするので、4ページ版がいいのではないかと

と思います。

領家教育長

多分写真はもっと大きくなって、周りの白い縁は出ないと思います。それでは、横型版がいいのではないかという意見がありましたがいかがでしょうか。

齋藤委員

それと、表紙の旗について一目でみて旗と分らなかったですし、文字が入っているのに、全然生きてこないです。もう一つ、図柄が大きすぎると思います。せっかく市全体を写しているのだから、全体が見えるような大きさがいいと思います。

齋藤課長

この絵は、旗でなびいている感覚を見せているという話でした。ですけど、確かに皆さん言うように、なかなか一目で旗と分かりづらいかもかもしれません。

領家教育長

明日、業者と打合せがあるので、皆さん方の思いはしっかり言っていただいて、伝えていただきたいと思います。

齋藤委員

旗の色に引きつける意味はあると思いますが、MASUDA FUTURE VISIONの文字が目立たないですね。

領家教育長

確認します。大きな流れは横立てで見せるほうが見やすいだろうという意見ですね。旗についてはもう少し工夫をしてもらいたい。

原田委員

この横型版だったとして、もし旗として言いたいのであれば、もう少し横の棒を長くしないと、旗というイメージが湧きにくいと思います。もう少しぎゅっと小さくして、棒の部分を長くしていただいたら伝わりやすいのかなというのが1点と、4ページ版にしたときに、この最後の裏に写真が来てしまうと、なかなかここまで見てもらえないのではないかという心配があって、この「わたしの学びがひととまちの未来を拓く」というイメージの写真がこの手と手が合わさったことだったので、中面に手の写真を入れてもらったほうが、思いと写真のイメージとが繋がると思います。何かこれがもったいない。となると、じゃあ裏はどうするかとなると、どうしたらいいのか分からないですが…。

領家教育長

この際だからもう思ったことをみんな言ってもらいながら、後は業者さんに最後までまとめてもらうことにしましょう。

齋藤委員

それと、事務局の連絡先はどこかに入れるのでしょうか。今は見当たらないですが。

齋藤課長

これは入れるような思いはないですけど、要は益田市の教育に関する大綱という位置づけのもので、住所等が要るような形にしなくてもよいと思っています。

齋藤委員

例えばこのチラシは、何処でつくったのか知りたいことや、もし質問や聞きたいことがあった時など、責任の所在を明らかにしていたほうがよいと思います。それと、ビジョンの中には、文化とかスポーツ体育の要素を入れるという話だったと思います。そうすると、やはりそれもリンクさせるような感じのデザインは必要ではないのかなと思いました。

齋藤課長

例えば益田市としてつくるわけですから、益田市という名前を入れるべきというのはもちろんあると思います。先ほど言われた文化的なものとなると、それはもちろん要望というか、こういう話も出ましたということはデザイン会社へ話をしようと思っています。それがどうなのか。例えば今言った色の使い方さえ、青だったら海、緑だったら山、そして赤だったら石州瓦という位置づけがちゃんとあるようなデザインにされたというところもありますので、文化的な部分を使ったデザインというのをもし新しく何か盛り込んでもらうということを提案するという方法はあるかと思っています。

齋藤委員

例えば学びという言葉を使っていますよね。そうすると、いかどうかは別として、例えば、市民学習センターには石州瓦が用いられています。これだけではなくて、益田のもう少し特徴的な建築物等をワンカットぐらいでも入らないかなと思ひ浮かびました。

領家教育長

グラントワとか。

齋藤委員

間違えました。グラントワです。

齋藤課長

グラントワは島根県の施設ですので、市の施設となれば、例えば益田市立雪舟の郷記念館を使うことも一つのやり方だと思います。

齋藤委員

やはり学びという言葉を使っているので、せっかく写真が入るのであれば、ワンカットでもいいし、裏表紙に持ってきてもよいのではないのでしょうか。

齋藤課長

確かにラフデザインを私も見ましたけど、形上はあえて皆さんが想像できるような写真として上げたものであって、完成版ではないです。確かに言われたように、あとは構成の問題だと思いますから、そこら辺のところの整理は、一つのご意見も含めて、いま一度デザイン会社と調整をするという形で進めたいと思っています。

領家教育長

今日言うておかないと意見は入りませんから、思ったことは全部言うていただいて、引き取ってもらえるかどうかは分かりません。

山本委員

この旗について、本当にインパクトがあり、そこは評価しているところでは。これまで回数を重ねて見ているので、目が慣れてくると、これも素敵なデザインであるかと思います。ただやはり旗の形、齋藤委員さんも原田委員さんも言われましたが、旗となかなか認識できないので、少し形を整えていただく、あとの色合い、それぞれの色にそのイメージしたものがあるとしたら、元の写真と合うように色合いを少し落としてもいいのではないかという気がします。形と色合いの調整でさらによくなるのではないかと思います。ポールを長くすることも一つの方法だと思います。デザインはプロが推奨しているもので、やはりそのメリットはあると思っていますので、そこは生かしていきたいと思っています。

あと、森脇委員さんが前に言われたと思いますが、キーカラーの色には理由があるので、何でこの色で構成したのかについての説明を少し入れていただくことと、それから最後の手のイメージは、今のままではあまりにもシンプル過ぎるように思いますが、今後いい形になることと期待します。

もう一つ、日本の中の益田市がどこにあるという位置図のようなデザインがあるといいなと思いました。日本の中で益田市がここに位置しているというのがわかるデザインがあればいいなという感想です。

領家教育長  
山本委員

そうですね、グローバルですもんね。

グローバルですから、世界の中でとなれば規模が大きなことになると思いますので。

領家教育長  
山本委員  
原田委員

インパクトありますね。

飛行機を飛ばしてみるのもいいかもしれませんね。

いいですね。

領家教育長  
齋藤課長

いいかもしれませんね。

そうですね。1点、この間の打合せのタイミングのところで話をしましたが、まずもって色合いの構成や、もしくは全体の写真についても、ドローンを飛ばして、もう一回色合いとしてもっと益田らしさを出せるようなものに取り替えるというような話も打合せの中でも出てきたところです。

あわせて、先ほど言った手の話です。これも基本的にこの間触れたかもしれませんが、この形ではないです。もちろんそれぞれいろんな年代の方々の手を撮影して、ちゃんとそれが重なり合うような、また太陽に向けてになるのかどこに向けるのか、いろいろ想像されているということは聞いていま

す。あえて、今のものではなく、ちゃんと写真を撮って、その撮った写真をデザインとして載せられるような現状をつかっていきたいということは聞いております。場合によっては皆さん方にも手のモデルになっていただく可能性もあるのかと思いますから、協力いただければうれしいと思っております。

領家教育長  
山本委員  
齋藤委員

市長の手も入れたらいいのではないかとっています。

いいですね。赤ちゃんとか。

それと、例えば子どものふるさと写真コンテストがあったと思いますが、その中から選んだ写真を載せることはどうでしょうか。

齋藤課長

そうですね。ご意見という位置づけであれば、一つのご意見だと思えますし、もちろんそれぞれ見る視点というのは人それぞれ違うと思えます。デザインをしていただくような形である以上、もちろんデザイン会社のいい点を取り入れなければいけない。また、皆さん方の言われる中でのいい点も盛り込んで、いいところ取りをしていきたいと思っております。そこら辺は意見をいただいたものを含めて打合せの際に話をしていきたいと思えます。全部が統合できるかというのは、今お約束できないということだけは先にお伝えしておきます。お願いします。

領家教育長  
齋藤委員  
齋藤課長

そのほかよろしいでしょうか。

これは何部ぐらい印刷する予定。

まだ印刷というより、デザインが固まっていないので未定です。例えばデジタル版はホームページに載せる予定です。紙面にした場合、それこそ皆に広く周知をする思いもあります。状況によっては教育長と話をする中では、例えばフラッグのデザインをあしらえてポロシャツをつくる案もあります。そして、ひとまるビジョン等に教育に関する大綱つくっているということがアピールできるような映像として残すという手もある。そういったところも、デザイン会社から提案も受けており、そのことについても少し今話をしている現状があります。

なので、今回大綱でデザイン会社に依頼をしてこういう形となりました。大綱とビジョンとで差があってもいけないので、実はビジョンに関しても同じように大綱のようにデザインをあしらえたような状況をつくっていく必要性があると考えています。そちらについてもデザイン会社にも事前に、教

育に関する大綱とのつながりというところを含めたものであ  
しらうようなことも考えていきたいという話はしている状況  
です。

原田委員

最後に1つ確認させてください。ついコスト面のことが気にな  
ってしまうのですが、今SDGsが言われている中で、あ  
まりにもたくさんの紙の資源を使うことが市民の方にどう受  
け取られるかという不安があります。確かにこのように大き  
い面を教育に関する大綱で使ってしまうことがどう受け取ら  
れるかが心配です。これは必ずA3の2つ折りにしないとい  
けないというわけではないですよ。A4を折らずにA4の  
裏表とかでもいけるのでしょうか。それでもいいのではない  
でしょうか。わざわざ何枚も使わなくてもいい。この4枚に  
すると、もったいない部分ができますよね。そうすると、読  
めるし、見えるのであればA4裏表でもいいのかなと思いま  
す。資源の意味で。

領家教育長  
齋藤課長  
領家教育長  
教育委員  
領家教育長

ありがとうございます。

その点についても検討していきたいと思います。

では、よろしいでしょうか。

=全員了承=

それでは、デザインについても一度確認をさせてくださ  
い。構成については、取りあえず4ページ版ということでき  
ず決まりました。旗が気になるから、少し調整をしてほし  
い。だけど、インパクトはいいと思う。それから絵と文につ  
いては、2つ折りサイズのほうがいいのではないだろうか  
ということ、それから棒をつけたほうが旗としてはよく見え  
るということ。手の写真については、裏表紙から中面に移動し  
てはどうかというご提案もありました。それから、連絡先等  
についても議論してほしい。それから、文化やスポーツを連  
想させるデザイン、それから益田市の特徴的な写真を加えて  
もいいと思う。それから、色合いの理由をぜひ掲載する。手  
の写真をもう少し分かりやすくしてほしい。それから、日本  
の中で益田と分かるようなデザインが一つあっても面白いの  
ではないだろうかという提案がありました。それから日本遺  
産の子どもの写真がありましたが、その作品を引用するとい  
うのも一つ提案がありました。それから最後に、原田委員か  
ら、もしかしたら資源節約のために、SDGsのためにもA  
4表裏でもいいのではないかというようなご意見もいただき  
ました。よろしゅうございますでしょうか。

教育委員  
領家教育長

=全員了承=

では、いただいた意見の整理をさせていただいて、明日の業者との調整に当たっていただくということにさせていただきます。

## (2) その他

今日予定をしておりました協議とデザインについては、以上とさせていただきます。では、その他に入らせていただいているのでしょうか。委員の皆さん、事務局、その他について何かございますでしょうか。

原田委員

お時間がないところすみません。前回、市の広報誌で、部活動の地域展開に関する意見が出されていきました。結局休日は地域展開で地域の人に任せるということになって、休日の練習試合とか試合ができないということに関しては今後検討が必要ですよというふうにまとめられていきましたが、検討が必要というものを読んで、今の中学生たちはどう判断したらいいかが分からないのではないかと思います。それに対してはどのように答え、じゃあ練習試合は週末できません、練習試合はせずに大会に臨みますということでもいいのかどうか。あの中途半端なままで置いておかれると、今これから中学生になる子が選べないと思いました。

領家教育長

地域のスポーツクラブを選ぶか部活に入るかということでしょうか。

原田委員

選ぶか、部活にそのまま進めばいいのか、それについてはどういうふうに回答されるのかと思って、お聞きしたいです。

田原課長

そのことにつきましては、11月に入って、保護者宛て、児童生徒宛てに文書を出す予定にしています。先ほど言われた件については、来年の1月を目途に結論を出すように協議をしていますということで、その記載は若干広報と変えています。そのため、まだ今の時点ではどちらとも結論めいたことは申し上げることはできません。来年の1月までにはそこら辺の取扱いについてはっきりさせるということは伝えようと思っています。その上で、どうされるかというのはそれぞれのご家庭でご判断をということになるかもしれません。

原田委員

取りあえずは1月の回答を待つということでしょうか。

田原課長

はい。

原田委員  
領家教育長

承知しました。

それまでは少し待って、その家庭用の通知を見たところでその結論が書いてあるからということですね。その1月の結論をどう伝えますか。

田原課長  
領家教育長

それは、また伝え方を考えないといけないと思っています。

間違いなく、それ1月の結論が市民の皆さんに伝わるという理解でいいですね。

田原課長  
領家教育長  
原田委員  
領家教育長  
原田委員

はい。

よろしいですか。

はい。

ありがとうございます。

ごめんなさい、もう一個あります。続けて、メディアコントロールウイークの取組についてですが、先日の松丸さんがおっしゃっていた内容が、「メディアを見るから勉強ができないわけじゃなくて、勉強をしないから勉強ができない。今それがメディアのせいにされているという視点は少しおかしいのではないか」というのを聞いて、確かに私もそうだなとすごく思いました。だから、コントロールすべきはメディアを見る時間ではなくて勉強をする時間で、むしろメディアコントロールウイークじゃなくてスタディーコントロールウイークに展開していかないといけないのではないかと思います。松丸さんも言っていたように、メディアが全て悪いわけじゃなくて、メディアからの学びとか語彙力が増えたりとか、実は文字数で頭に入れる数が多かったりというのもあるので、そっちの方向にこれから教育委員会としても展開していったほうがいいと思います。あれから、うちの息子は4時半に起きて3時間勉強して、ゲームは無制限でやっています。

領家教育長  
原田委員

松丸さんと同じですね。

それぐらい影響力があったのだと思いました。メディアの時間は増えたけれども、その分勉強の時間も3倍になって、メディアにしたところでじゃあどれぐらい変わるのかというのを考える必要があるかなと思います。

領家教育長

外堀を埋めるのではなくて、直球で伝えたいことをしっかり子どもに伝えるほうが分かりやすいというのをこの間の松丸さんの公演で思いました。心に響いた子どもがたくさんいたのではないかなと思いました。

原田委員

ゲームしたかったら勉強すればいいという単純な発想で、本

当にちゃんと勉強をするようになりました。

領家教育長

とても分かりやすい、シンプルな発言でした。そのほか、皆さん方いかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございました。では、その他についてもよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

領家教育長

それでは、本日予定しておりました議事全てが終了いたしました。これをもちまして950回益田市教育委員会臨時会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

=終了時間 16時30分=